

不登校になってわかったこと

松阪市立殿町中学校3年 村田 薫音

皆さんは「学校」と聞いて何を思い浮かべますか。「楽しい」「学生に戻りたい」「青春」このようなことを思い浮かべた人が多いのではないのでしょうか。私も学校は楽しいところだと思っていました。今、私が「学校」と聞いて思い浮かべることは「怖い」です。楽しいところだと思っていたのに怖いところへ変わったなんて聞いたら大半の人は混乱すると思います。学校が怖いと思うようになった理由は私がパニック障害になったからです。そして不登校気味になってしまいました。私の場合は精神疾患を患ったために学校が怖いと感じるようになりましたが、いじめなどの人間関係や心身の不調がきっかけで、学校が怖いと思うようになり、不登校になった学生が数多くいます。現代社会では不登校児童生徒が小学校では百人に一人、中学校では二十四人に一人、高校では七十一人に一人いるそうです。中学校における不登校児童の割合が多く、これは、クラスに一人は必ず不登校の生徒がいるような割合です。思い返してみると私の通っていた小学校でも一年生から六年生にかけて不登校の子が増えていました。また中学生になり、中学一年生、二年生ともにクラスには数人不登校の子がいました。また、「潜在的な不登校」というものもあるそうでこれは、隠れ不登校とも呼ばれているそうです。意味としては、「登校しても教室に入れない、教室でじっと我慢しているだけ」つまり、学校や友人関係への不安や葛藤を抱えながら登校している状態の事です。そして、隠れ不登校の子たちは推計で三十三万人もいて、十人に一人、不登校児童生徒の三倍以上です。

先述の通り不登校や隠れ不登校になる事にはさまざまな理由があります。主な原因は自信が持てず人とうまく関われないことでネット社会に現実逃避したり、勉強に追いつけなかったり、身体の不調であったり更には、原因が自分でもわからないと本当にさまざまです。

ではこのようなことを抱えている子たちが一般的な学校生活を送れるようになるにはどうしたらいいのでしょうか。私は一番は「周りの支え」だと思っています。私はとても環境に恵まれていると思います。辛い時は母や友達が話を聞いてくれて、困ったことがあった時先生方に相談したら親身に寄り添ってくれて、何とか学校に行けています。

また、私は学校と一番向き合っているのは「不登校の子」だと思っています。これは、私がまだ毎日学校に行っていた時、何も考えずに朝起きて授業を受けることができていた時より、今の朝起きられず、授業も教室で受けられず、この先の進学や就職はどうなるんだろうと毎日のように不安に襲われ、考えているからです。不登校の子全員がこんなことを考えているとは言いませんが私と同じ気持ちの子もいるのではないのでしょうか。

不登校の子にも人権があります。人権がある以上「義務教育」を受けなければいけません。そのため、全ての子供が教育を受けることのできる社会を実現させるため、私は、自分自身の経験を活かして、将来的には不登校の子達を支える活動に参加したいと考えています。

最後に伝えたいことがあります。まずは不登校ではない人へ。一つは「不登校は甘えではない」と言うこと。二つは「不登校の子を冷たい目でみて責めないで」と言うことです。自分とは違う人間を理解することは難しいことです。理解してとは言いません。ただただ見守っててください。

次に不登校、隠れ不登校の子達へ、焦らずゆっくり問題を解決していきましょう。相談できる人はいませんか。いるならば相談してみたいです。話すだけで少しは心が楽になると思います。いないならば、チャイルドラインなどを活用してみてください。私も利用したことがあります。とても親身に話を聞いてくれました。「学校が怖いなら無理に行く必要はないよ」という言葉をかけてもらい少し心が楽になりました。学校は慣れることから始めましょう。焦らずに、一歩、一歩。